



横浜市立峯小学校 学校だより  
令和8年度 7月号 令和8年6月19日発行

# 峯の風

学校教育目標  
未来に向けて  
輝く峯の子

峯小学校ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/sch/es/mine>

## 心を寄せて関わったと思えるものが「大切なもの」になる

副校長 柴田 耕治

6月12日(金)、正門向かって左側と東門右側の2か所の花壇に花苗約250ポットを植えました。この日は保護者ボランティア5名とそのお子さん(2歳)が活動に参加しました。

「前の方は背の低い花。この中でいったら、ペチュニアとトレニア。

その後ろに、日々草、ナデシコやマリーゴールド。」

「でも日々草は、ご近所のお庭を見ると、結構、もじゃもじゃって這うように広がっているイメージがあるけど。」

「だったら日々草は、各島の両サイドにしましょう。」

「それ、いいかも。」

「それで後ろに、背の高いブルーサルビアとコキアを並べる。」

「おお〜。」

みんなでアイデアを出し合って進める活動は、作業というより「問題解決」でした。

ボランティアメンバーは、共に汗を流し、心地よい風を肌で感じながら活動に励み、最後は「やり切った〜。達成感ある〜。」と喜びの声が上がりました。

その週の火曜日には、児童環境委員会が正門向かって右側(プール側)の花壇にたくさんの花苗を補植していました。花苗の数量は、中休みの15分ではとても終わるようなものではありません。時間内でできる限り頑張り、残りの苗を残して子どもたちは3校時の授業に向かいました。残りの作業は放課後に担当職員で行うものと思われましたが、「自分たちだけでは終わらない。」と考えた環境委員会の子どもたちは、友達に呼びかけてボランティアを募り、昼休みを使って苗植えを行ったのです。呼びかけにこたえて手伝ってくれた仲間も素敵ですし、ピンチの中で呼びかけを思いつき、仲間を広げて解決に導いた子どもたちも素敵です。最後まで自分たちで苗を植え切った子どもたちの達成感が想像されます。

「この花壇、自分たちがつくったんだよなあ。」

正門を通るとき、そんなことを思い出すかもしれません。それだけでなく、自分たちと同じように楽しみながら苦勞して植えられた東門などのほかの花壇の花々も今までと違った見え方をするでしょう。何事も関わることで今まで目に留まらなかったものが、見えるようになります。そして、繰り返し関わる中で新たな問題に直面し、調べたり工夫したりしながら解決していくうちに、ますます気になるようになり、小さな変化に気付くようになります。このように心を寄せて関わるようになると、愛着がわき、大切なものになっていきます。

自分が「心を寄せて関わった」と思える小さな花壇が「大切なものになる」と同じように、自分のクラスも学年も、学校も、そしてこの峯のまちも、今以上に自分にとって大切に思える、そのような具体的な活動や体験をわたしたちは工夫していきます。

